新日軽

マニュアル番号 ME-1621

大型パーゴラ 組立施工マニュアル

●この度は、新日軽商品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この組立施工マニュアルをよくお読みの上、作業を行なってください。
●本マニュアルに示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたっては必ずお守りください。
●施工は専門業者が行なってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
●このマニュアルは施工後必ず施主様にお渡しください。

施工時の注意事項

施工にあたっては次の点をご注意ください。

●モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、アルミの腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
●モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
●アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
●腐食の恐れのある接着剤や化学製品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。
●埋め込み柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や凍結破損の原因になります。
●モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようにご注意ください。
●施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
●養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重い物をのせたり、振動させたりしないように指示してください。
●改造・変更をしないでください。

このマニュアルに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意　味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。	❗	「必ず行っていただくこと」を示しています。

⚠注意

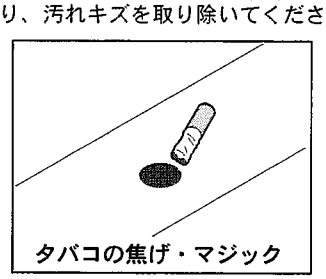
●本商品は、樹脂材料を使用していますので、ビスの締付けには十分注意してください。締付けすぎると部材が割れる、あるいは破損する恐れがあります。
●各構成部材（柱･梁･母屋）は、樹脂カバーとアルミ補強材のズレを防ぐためにビス止めしてあります。部材を切詰める際は、再度ビス止めして部材がズレないようにしてから施工してください。
●施工後は、必要に応じて養生を施してください。
●本体を揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。
●梁・母屋にはぶらさがらないでください。
ブランコなど荷重のかかるものは設置しないでください。
●本体に雨具、洗濯物、布団等を載せないでください。

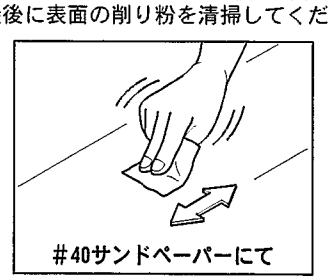
❗ 使用上のご注意について

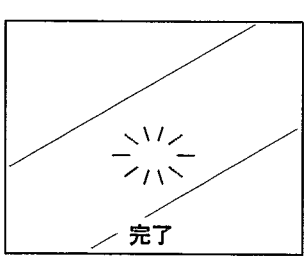
●樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性をもっていますが、濃酸、濃アルカリ、また、シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は使用しないでください。
●本体の近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると変形、割れを生じることがあります。
●樹脂は、微小火源には着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。また、70℃以上になると変形しますので、近くで焚き火をしたり高温のものを近づけたりしないでください。

樹脂製品のお手入れ方法について

○洗浄方法：中性洗剤を所定の割合で水で希釈し、布巾などで部材の長手方向に擦るように拭き、最後に水で洗剤をきれいに洗い流してください。
※月に数回の水洗いと、空ぶきだけでも効果的です。ただし、工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
○汚れキズ等の補修：まず、表面の汚れを雑巾などで拭き取ってください。その後、汚れキズ部分をサンドペーパー（#40）を長手方向に擦り、汚れキズを取り除いてください。最後に表面の削り粉を清掃してください。


タバコの焦げ・マジック


#40サンドペーパーにて


完了

※1. 油なども同様の方法で落とせます。※2. サンディング方法により表面の木目感が若干異なることがあります。

もくじ

梱包明細 2
各部の名称 2
納まり図 3
1. 柱の設置 5
1-1. 梁取付ブラケットの取付け 5
1-2. 柱の埋め込み 5
2. 梁の取付け 6
2-1. 母屋取付ブラケットの取付け 6
2-2. 梁の取付け（単体の場合）..... 6
2-3. 梁の取付け（奥行連棟の場合）..... 7
3. 母屋の取付け 9
3-1. 母屋の取付け 9
施工工事店様、販売店様へのお願い

梱包明細

●施工前に部材数量の確認および部品数量の確認をしてください。
また品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
●マニュアルに記載している部材・部品（ビス含）以外は使用しないでください。

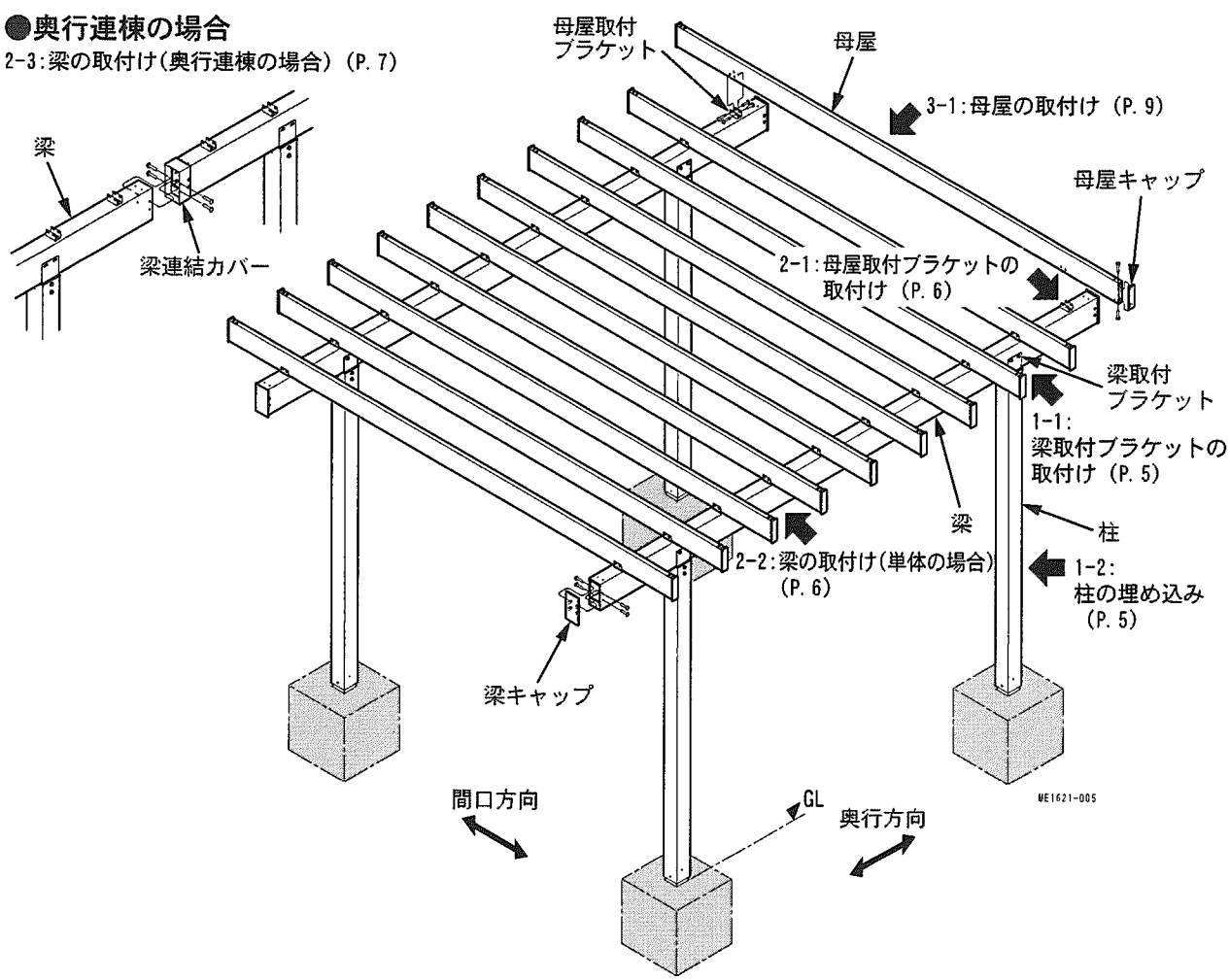
表内の（　）は個数を表わしています。

梱包名称	梱包内容
柱	柱(1)
梁	梁(1)
母屋	母屋(2)
部品セット	梁キャップ(4)・母屋キャップ(20)・φ4×25トラスタッピン3種(56) 梁取付ブラケット(4)・M8六角フランジボルト(16) M8×120六角ボルト(8)・M8用平座金(16)・M8用バネ座金(8)・M8ナット(8) 母屋取付ブラケット(20)・φ4×25セルフドリリングビス(40) φ4×19セルフドリリングビス(80)・組立施工マニュアル[ME-1621](1)
連結部品	梁連結カバー(2)・φ4×25トラスタッピン3種(16)

各部の名称

●組立施工および調整の説明項目を示しています。施工作業前に確認してください。
※（　）内は説明ページを示しています。

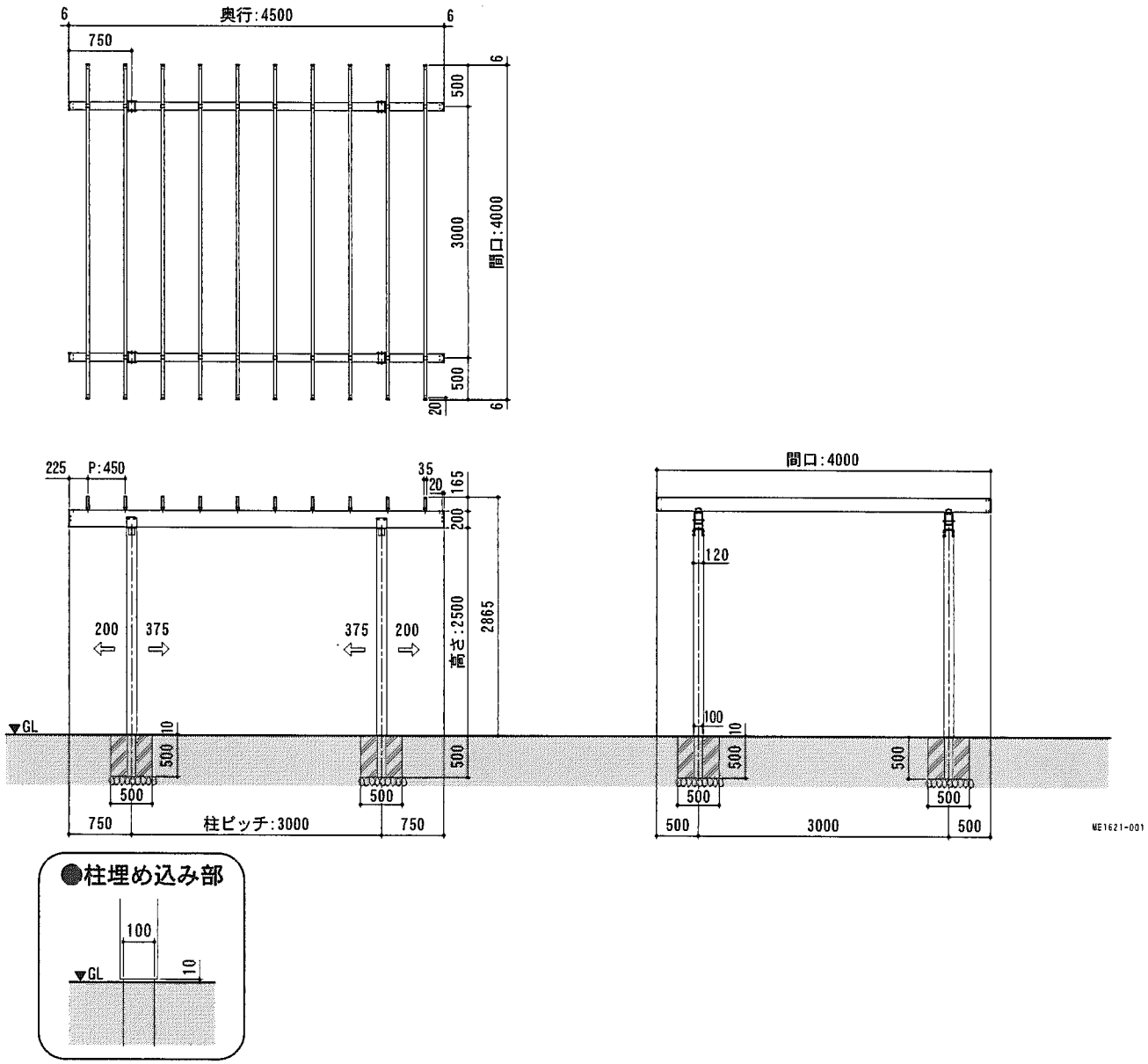
●奥行連棟の場合



納まり図

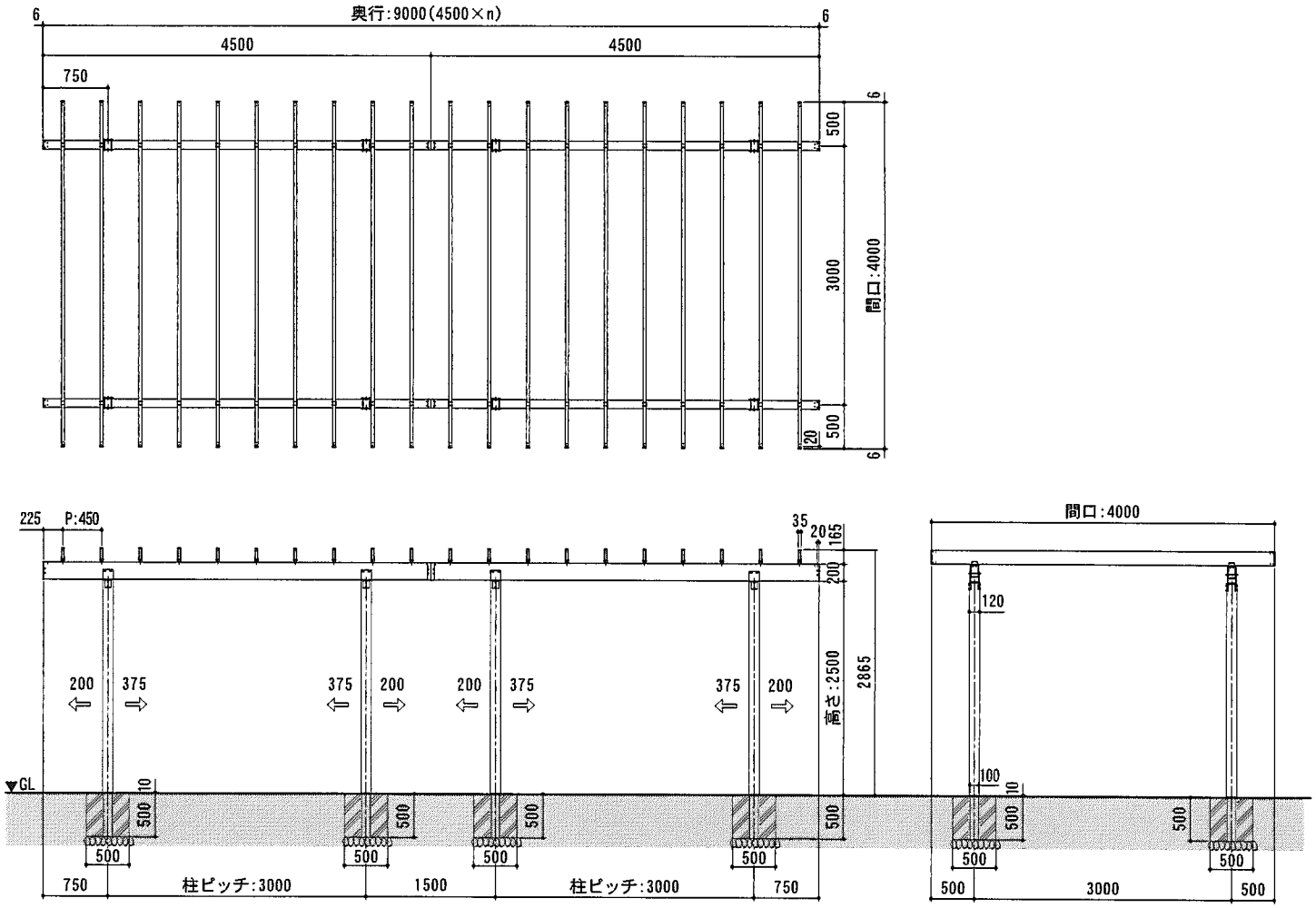
●施工前に、巾や高さ寸法を確認してください。
●奥行連棟は単体の連結となります。2棟以上何棟でも連棟可能です。
●⇦印は柱移動範囲を示します。

単　体

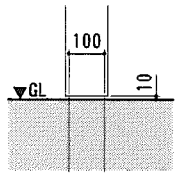


奥行連棟

※この納まり図は、2連棟を示しています。
※（　）内はn連棟の場合の寸法です。



●柱埋め込み部



柱ピッチを最小にすると、柱を等間隔にすることができます。

1 柱の設置

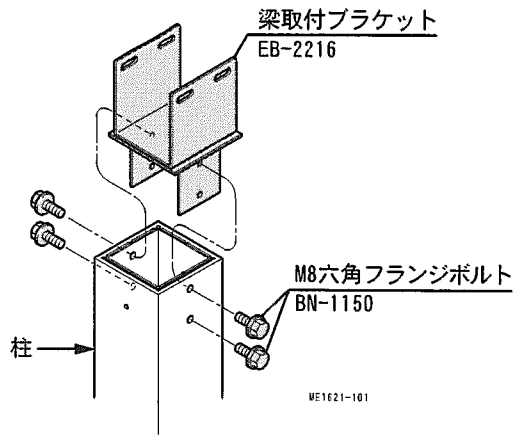
●「納まり図」で巾や高さ寸法を確認して施工してください。

1－1 梁取付ブラケットの取付け

梁取付ブラケットを柱の上部に取付けてください。

施工時にボルトを締付け過ぎないように注意してください。

※ボルトを締付け過ぎると、柱（樹脂材料）の破損の原因になります。



1－2 柱の埋め込み

「納まり図」で柱の埋め込み位置や高さ寸法を確認し、柱を設置してください。

柱の向きに注意してください。

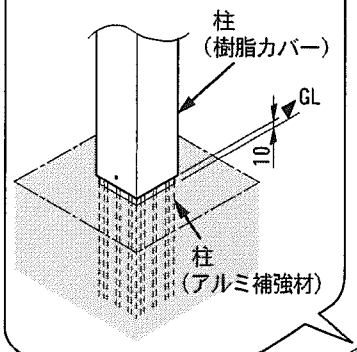
⚠注意

レベル合わせを正確に行い、柱を埋め込んでください。

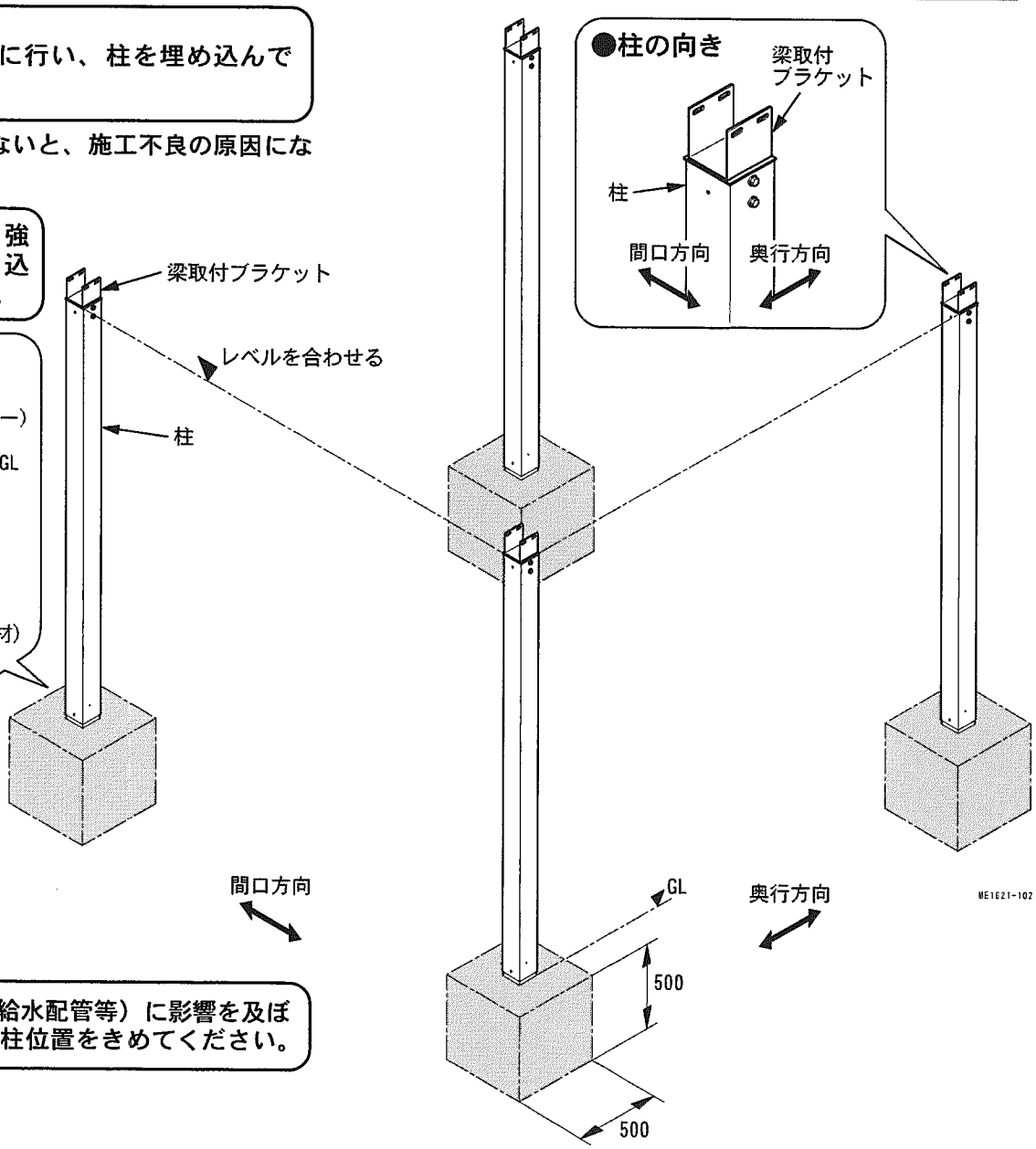
※レベルが合っていないと、施工不良の原因になります。

柱はアルミ補強材部のみ埋め込んでください。

●柱埋め込み部



●柱の向き



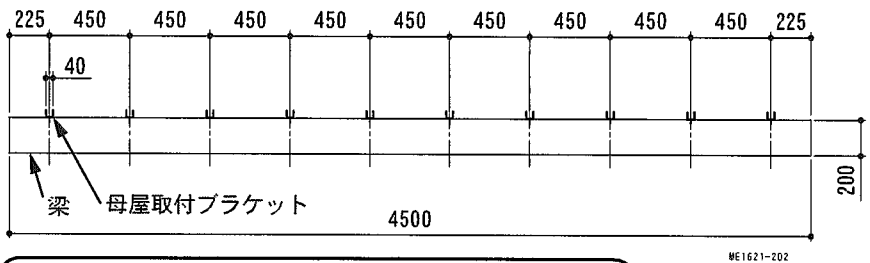
地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱位置をきめてください。

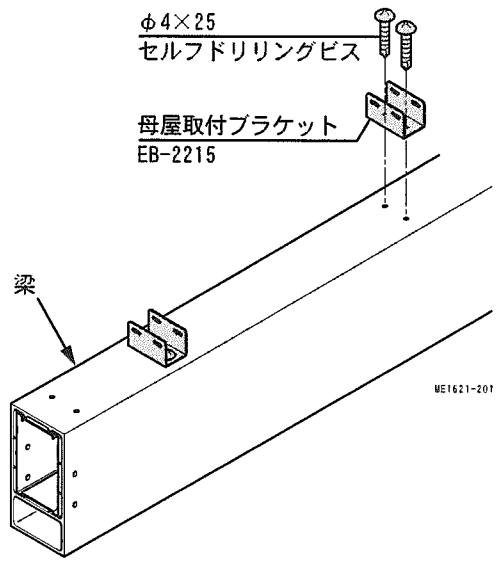
2 梁の取付け

2－1 母屋取付ブラケットの取付け

①梁（樹脂材料）の下孔加工に合わせて、母屋取付ブラケットを梁に取付けてください。

●ブラケット取付寸法





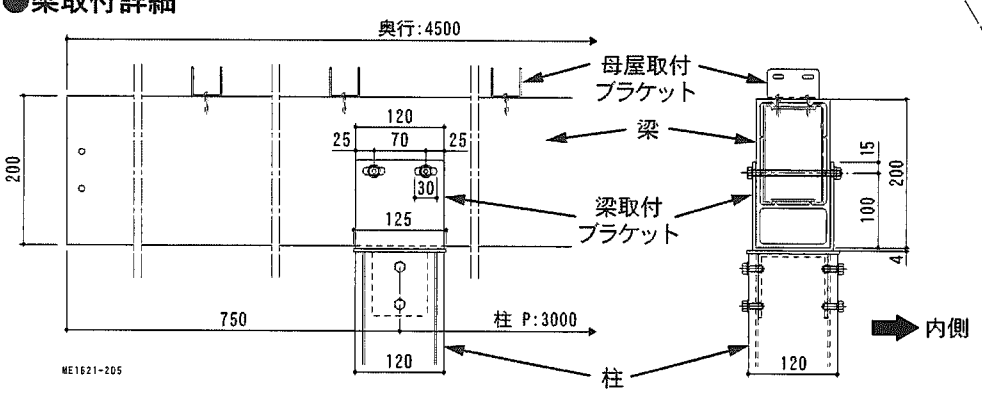
施工時にビスを締付け過ぎないように注意してください。

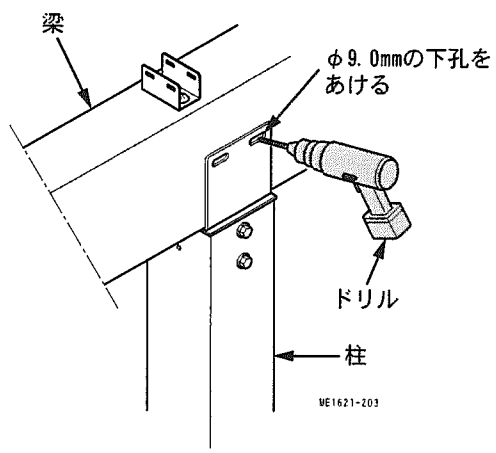
※ビスを締付け過ぎると、梁（樹脂材料）の破損の原因になります。

2－2 梁の取付け（単体の場合）

①梁を梁取付ブラケットに載せ、位置を合わせてφ9.0mmの下孔を梁の両側にあけてください。

●梁取付詳細





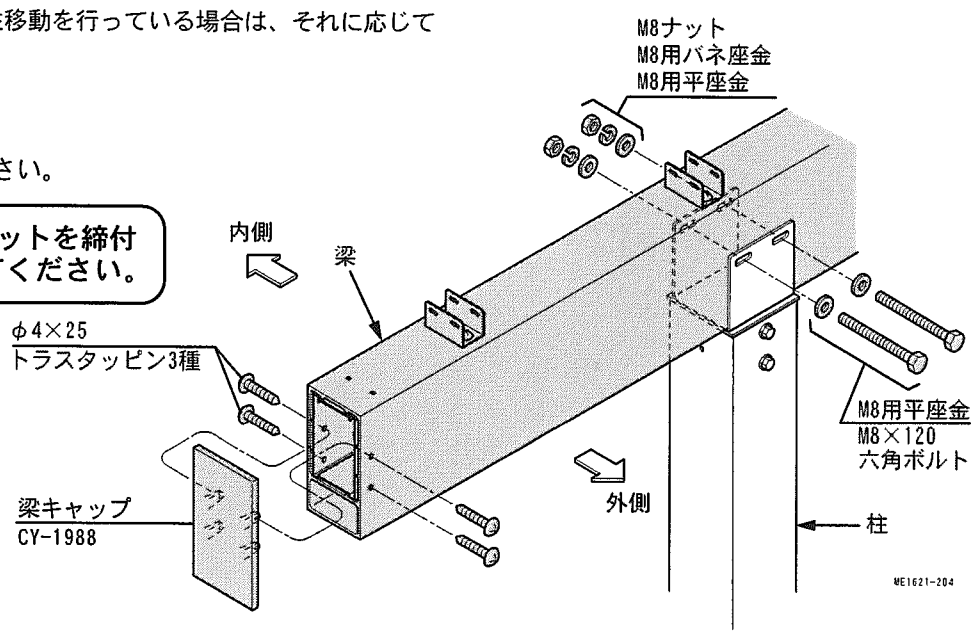
※本図は規格寸法の場合を示しています。柱移動を行っている場合は、それに応じて梁の取付位置を合わせてください。

②梁を柱に取付けてください。

③梁キャップを梁の端部に取付けてください。

施工時にビス、ボルト・ナットを締付け過ぎないように注意してください。

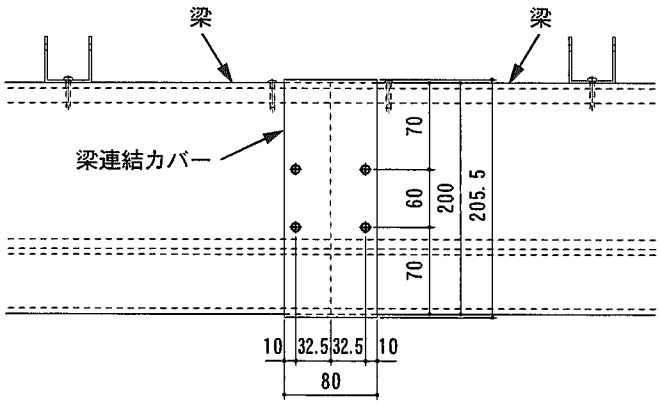
※ビス、ボルト・ナットを締付け過ぎると、梁（樹脂材料）の破損の原因になります。
梁（樹脂材料）がヘコまない程度に締付けてください。

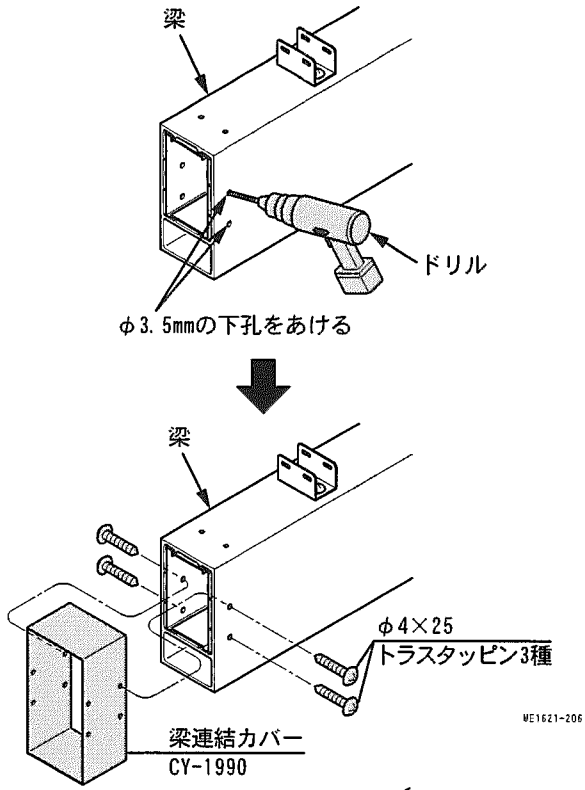


2－3 梁の取付け（奥行連棟の場合）

①梁の連結側端部にφ3.5mmの下孔を4ヶ所あけてください。

●梁連結カバー取付詳細

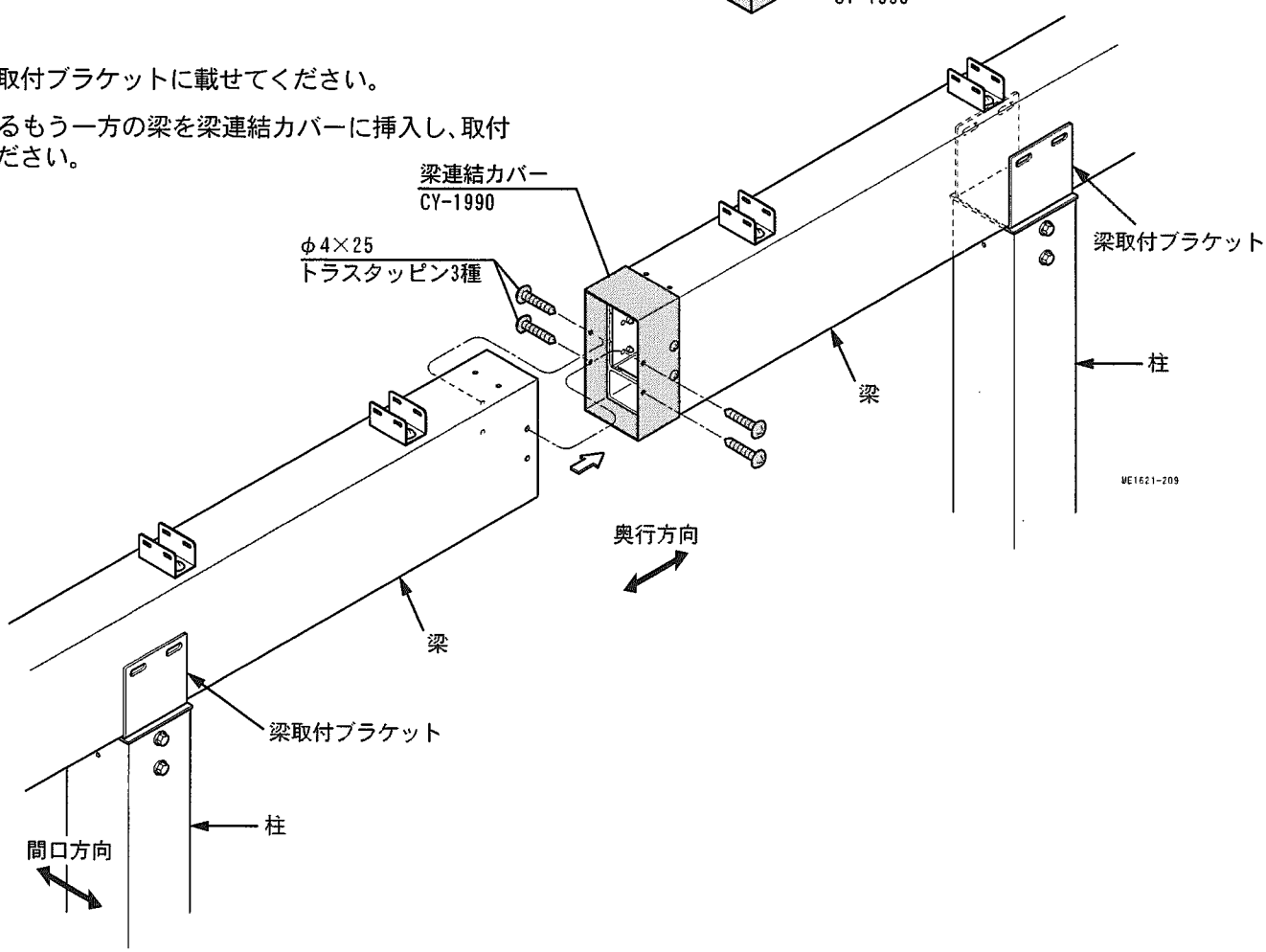




②梁連結カバーを、連結する一方の梁に取付けてください。

③梁を梁取付ブラケットに載せてください。

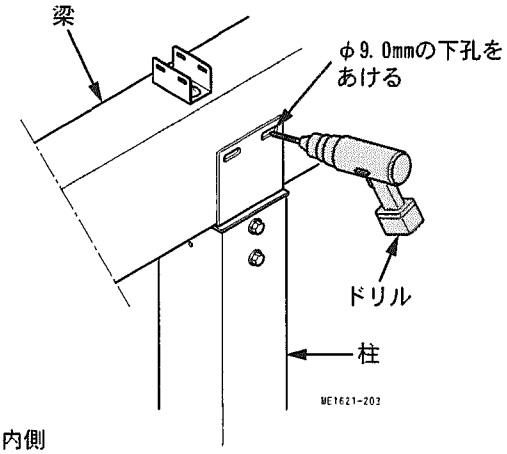
④連結するもう一方の梁を梁連結カバーに挿入し、取付けてください。



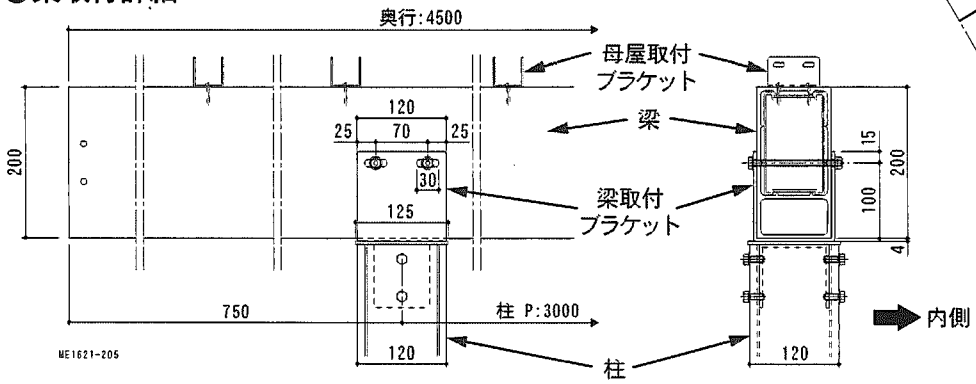
施工時にビスを締付け過ぎないように注意してください。

※ビスを締付け過ぎると、梁（樹脂材料）の破損の原因になります。
梁（樹脂材料）がヘコまない程度に締付けてください。

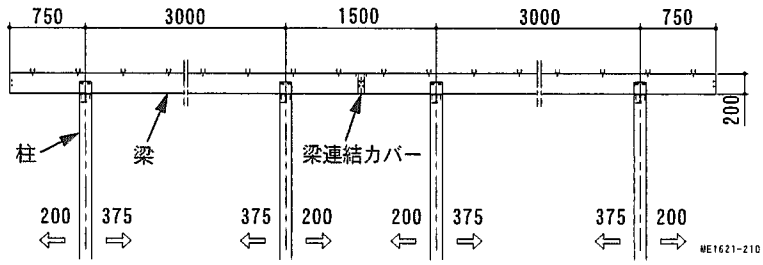
⑤梁と梁取付ブラケットの位置を合わせ、φ9.0mmの下孔を梁の両側にあけてください。



●梁取付詳細



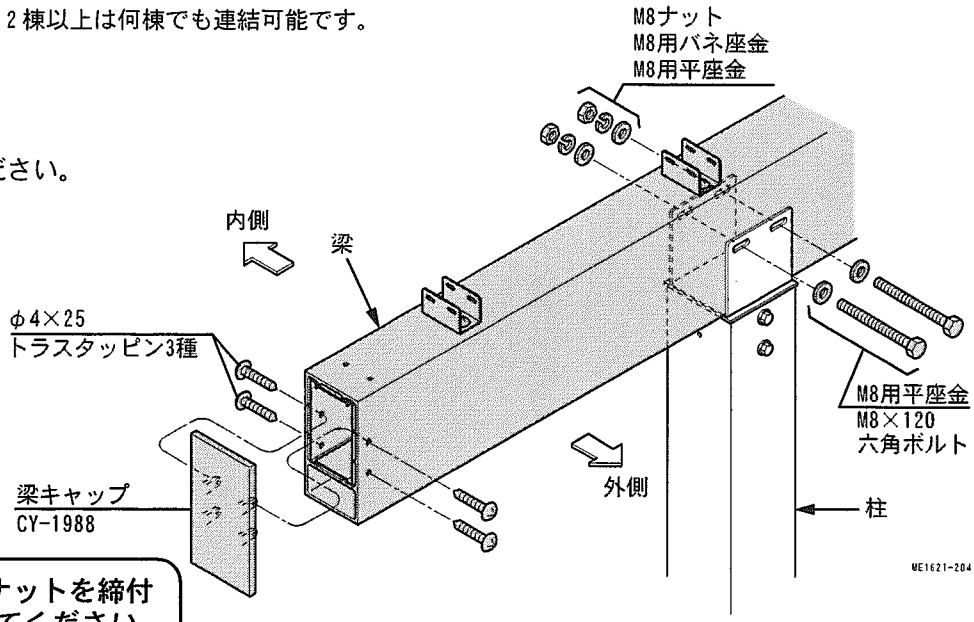
※本図は規格寸法の場合を示しています。柱移動を行っている場合は、それに応じて梁の取付位置を合わせてください。



※本図は2連棟の場合を示しています。2棟以上は何棟でも連結可能です。
※⇦印は柱移動範囲を示します。

⑥梁を柱に取付けてください。

⑦梁キャップを梁の端部に取付けてください。



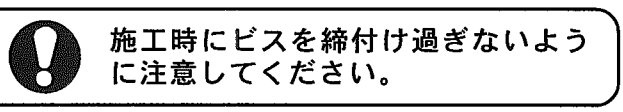
施工時にビス、ボルト・ナットを締付け過ぎないように注意してください。

※ビス、ボルト・ナットを締付け過ぎると、梁（樹脂材料）の破損の原因になります。
梁（樹脂材料）がヘコまない程度に締付けてください。

3 母屋の取付け

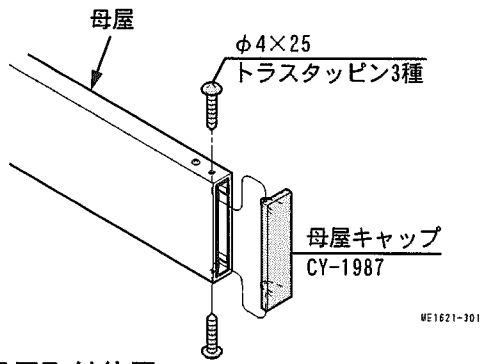
3－1 母屋の取付け

①母屋キャップを母屋の端部に取付けてください。



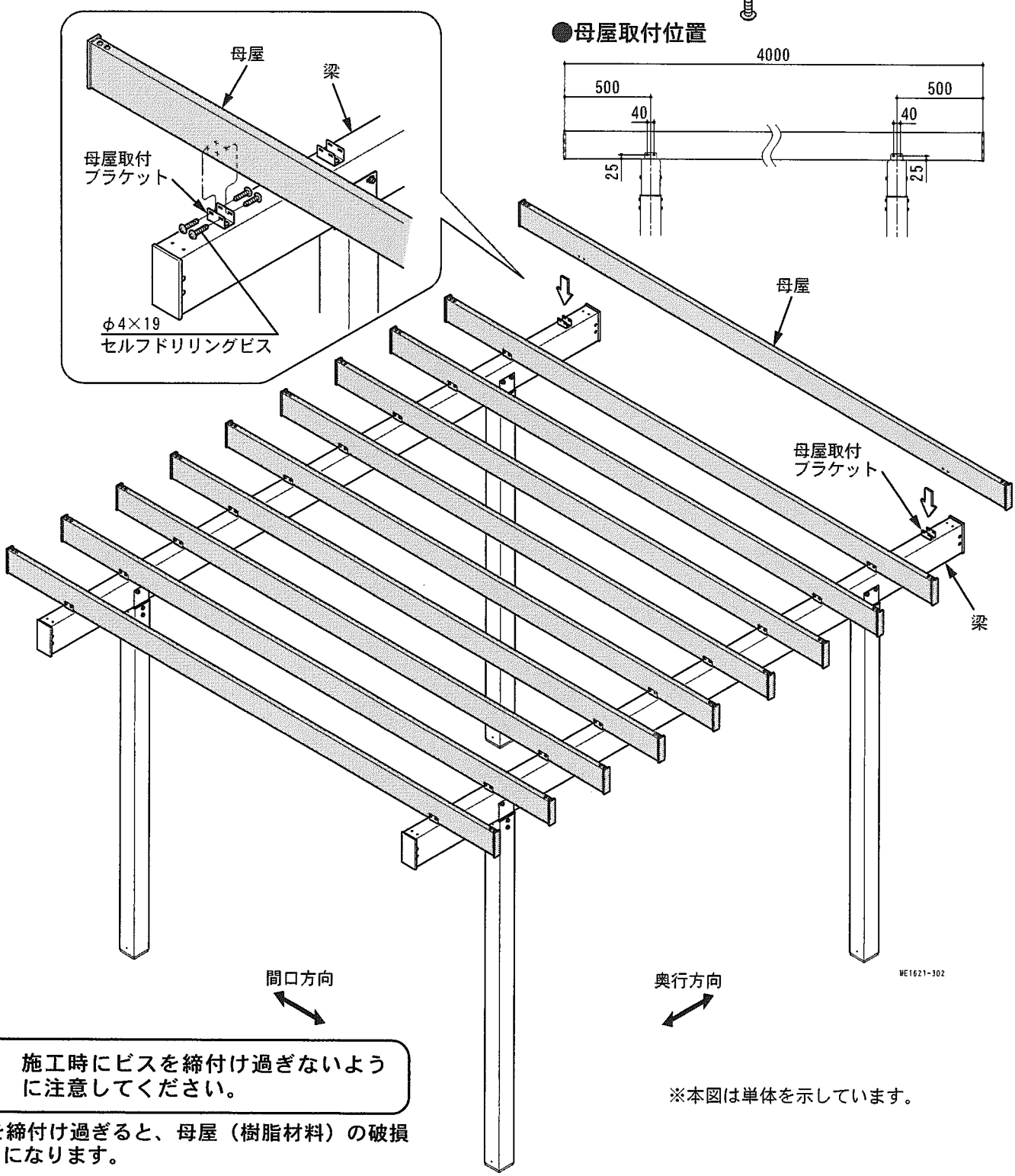
施工時にビスを締付け過ぎないように注意してください。

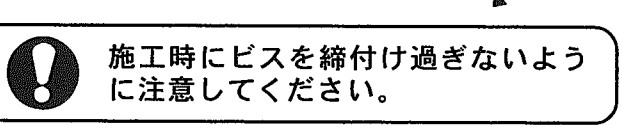
※ビスを締付け過ぎると、母屋（樹脂材料）の破損の原因になります。



②母屋を母屋取付ブラケットに取付けてください。

●母屋取付位置





施工時にビスを締付け過ぎないように注意してください。

※ビスを締付け過ぎると、母屋（樹脂材料）の破損の原因になります。

※本図は単体を示しています。

施工工事店様、販売店様へのお願い

－お願い－

●「お施主様用手引き」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。

●このマニュアルは、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年　　月　　日
施工工事店	TEL（　　）　　－
販売店	TEL（　　）　　－
商品名	
その他	